

4. ニッケルの国際市況と需給動向（2005年11月）

希少金属備蓄グループ

1. ニッケルの国際価格は、世界的なステンレス鋼ミルの減産などから夏場より軟調推移し、9月中旬には2004年12月以来の14,000ドル割れ。10月に入ってもステンレスメーカーの減産継続などによりさらに下落、月末には2004年5月以来の12,000ドル割れとなる。11月も11,000ドル台で推移したが、投機資金流入などから中旬より回復、11月末日現在12,605ドル。
2. 2005年1～8月の需給バランスは、32.7千tの供給過剰。LME在庫量は2005年に入り大幅に減少したが8月より回復、11月末時点で23,964t。
3. 国際ニッケル研究会によると、2005年のニッケル地金生産は129万t、ニッケル地金消費は126万tで、需給バランスは約3万tの供給過剰と予測。ニッケル国際価格については、投機資金の流入などから年内は強含みで推移するとの見方が強いが、ステンレスメーカーの減産継続やLME在庫の増加傾向等の弱材料には変化はない。

1. 国際価格

ニッケルの国際価格は、6月中旬まで16,000ドル台で堅調推移したものの、世界的なステンレス鋼ミルの減産などから夏場は14,000～15,000ドル台で推移。9月中旬にはインコ社の労使交渉妥結などを受け、2004年12月以来の14,000ドル割れとなった。10月に入りステンレスメーカーの減産継続などからさらに下落し、10月21日には2004年5月以来の12,000ドル割れとなった。11月に入っても11,500ドル前後が続いたが、中旬より回復し11月末日現在12,605ドル。

ニッケル国際価格は、2月後半には2004年10月以来の16,000ドル台となり、6月中旬まで16,000ドル台中盤で堅調推移したが、世界的なステンレス鋼の供給過剰懸念が嫌気されたことから6月22日に大幅下落し16,000ドルを割り込んだ。同月24日には14,955ドルと2005年2月以来の15,000ドル割れへと続落した。その後、7月に入っても、欧州、韓国、国内のステンレス鋼ミルの相次ぐ減産なども影響し14,000ドル台が続き、8月も14,000～15,000ドル台で推移した。9月上旬15,000ドル台を付けていたが、その後徐々に下落し14,000台とな

り、9月15日にはインコ社の労使交渉妥結などを受け、2004年12月以来の14,000割れとなった。9月中は13,500ドル前後で推移したが、ステンレスメーカーの減産継続や一部投機資金の引上げなどの影響により10月に入りさらに下落し、10月21日には2004年5月以来の12,000ドル割れとなった。11月に入っても11,500ドル前後が続いたが、非鉄金属全般への投機資金流入などから中旬より回復し、11月下旬には一時13,000ドル台をつけ、11月末日現在12,605ドルとなっている（図4-1）。



ニッケル	2004年	2005年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
LME在庫 (t)	20,898	16,644	9,924	9,936	6,240	8,064	7,032	7,110	9,258	13,488	18,420	23,964
平均価格 (US\$/t)	13,776	14,505	15,350	16,190	16,142	16,932	16,160	14,581	14,893	14,228	12,403	12,116

出典：国際ニッケル研究会

図4-1 ニッケルの価格と在庫量の推移

2. 需給（2005年1～8月）

2005年1～8月の鉱石生産は3.1%（26.4千t）の増。地金生産は3.3%（26.4千t）の増。消費は1.3%（10.6千t）の減。

2005年1～8月の需給バランスは、32.7千tの供給過剰。

LME在庫量は2005年に入り大幅に減少したが8月より回復、11月末時点で23,964t。

2005年1～8月のニッケル鉱石生産は891.5千tで、対前年比3.1%（26.4千t）の増となった。最大生産国のロシアは2.3%（4.0千t）の増、第2位豪州は20.5%（22.0千t）の大幅増となり、第3位カナダの2.2%（2.7千t）の減、第4位インドネシアの2.8%（2.6千t）の減、第5位ニューカレドニアの6.2%（4.9千t）の減を補った。2005年1～8月のニッケル地金生産は852.7千tで、対前年比3.3%（26.4千t）の増となった。最大生産国ロシアはほぼ変わらず、第2位の日本は4.5%（5.1千t）の減、第3位カナダは6.0%（5.8千t）の減となったが、第4位豪州の12.5%（9.8千t）の増、第5位中国の16.1%（9.1千t）の増がこれを補った。2005年1～8月のニッケル地金消費は820.0千tで、前年比1.3%（10.6千t）の減となった。2005年中盤に日本を抜いて消費量第1位となった中国は

35.5%（33.0千t）の大幅増、第3位の米国は1.7%（1.4千t）の増となり、第2位の日本は8.7%（11.1千t）の減、第4位韓国は6.3%（4.3千t）の減、第5位ドイツは4.4%（2.9千t）の減であった。

2005年1月～8月の需給バランスは、32.7千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫量は、2005年に入り減少傾向に転じ、5月中旬には5,000tを割り込み1991年以来の低水準となった。その後やや回復し、5月末か6月後半までは8,000t前後、6月末から7月は7,000t前後が続いた。8月に入りさらに回復し同月下旬には9,000t台、9月9日には約半年ぶりに10,000tを超え、その後も増加傾向が続いた。11月14日には今年1月以来の20,000tを超え、11末日時点で23,964tとなっている（表4-1、4-2）。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位：千t (Ni純分)

ニッケル	2004年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計	1~8月計
鉱山生産量	109.6	105.0	109.0	111.4	108.2	107.2	106.0	108.6	113.5	113.8	106.9	108.8	1,308.1	865.1
一次地金生産量	108.7	103.2	102.7	105.7	103.7	100.5	97.2	104.5	101.4	105.3	106.5	110.8	1,250.4	826.4
消費量	103.0	101.7	106.4	106.5	102.4	107.9	104.7	98.0	103.0	106.7	106.7	106.4	1,253.3	830.6
需給バランス	5.7	1.5	-3.7	-0.8	1.3	-7.4	-8	6.5	-1.6	-1.4	-0.2	4.4	-2.9	-4.2
ニッケル	2005年										前年 同期比 (%)			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	1~8月計					
鉱山生産量	106.9	108.6	116.8	112.0	111.5	119.1	108.7	108.0	891.5	3.1				
一次地金生産量	109.3	104.4	111.3	105.7	110.7	102.5	103.8	105.0	852.7	3.3				
消費量	110.6	105.6	106.5	105.6	107.0	100.6	93.1	91.0	820.0	-1.3				
需給バランス	-1.3	-1.2	4.8	0.1	3.7	1.9	10.7	14.0	32.7	-				

出典：国際ニッケル研究会

表4-2 LME在庫の変遷(2004年12月~2005年11月)

単位：t

国名	2004年	2005年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
ベルギー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	12
ドイツ	216	126	42	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1,500
イタリア	90	60	42	42	42	120	120	90	90	30	30	30	
韓国	-	-	-	-	-	348	288	252	186	6	288	270	
オランダ	3,024	1,758	1,050	3,780	1,518	5,196	4,638	5,130	4,014	8,952	8,508	6,408	
シンガポール	30	24	6	804	336	6	72	144	906	402	366	636	
スウェーデン	2,475	2,478	2,226	1,434	1,188	984	792	510	3,054	2,850	4,548	5,094	
英国	14,940	12,198	6,558	3,870	2,940	1,410	1,122	984	1,008	1,248	5,106	10,014	
合計	20,898	16,644	9,924	9,936	6,024	8,064	7,032	7,110	9,258	13,488	18,858	23,964	

出典：国際ニッケル研究会

今後の見通し

国際ニッケル研究会によると、2005年、2006年のニッケル需給については、ニッケル価格高騰による低ニッケルステンレスへのシフトやリサイクル率向上から需要が減少する一方、中国需要は引き続き増大することから、ニッケル消費全体は緩やかに増加するとの見通し。2005年のニッケル地金生産は2.8%増の129万t、ニッケル地金消費は0.3%増の126万tで、需給バランスは約3万tの供給過剰と予測している。

主要生産者等の予測では、今後のニッケル需要については、アジアを中心としたステンレス

需要の回復やメッキ用、電池材料用、航空機部材用需要も堅調であることから、2006年にかけて回復するとの見方が強い。

ニッケル価格については、非鉄金属市場全体に向かっている投機資金がニッケルにも波及しているため、年内は強含みで推移するとの見方が強い。しかし、ステンレスメーカーの減産継続やLME在庫の増加傾向等の弱材料に変化はなく、目先のニッケル相場回復は実需が伴っていないものと見られる。中国向けステンレス需要の回復が見られれば、相場の本格的な再上昇に繋がるとの見方もある。

